

マーケットの動き (2020年9月7日～9月11日)

先週の米国国債市場は、前週末比で金利が低下しました（債券価格は上昇）。

ECB（欧州中央銀行）理事会はサプライズなく終わったものの、イギリスのEU（欧州連合）離脱協議の難航が報じられたことが市場のリスクセンチメントの重石となりました。

ドイツ国債市場もおおむね米国と連動する推移となりました。

投資環境見通し (2020年9月)

長期金利は、米国、ドイツともレンジ内での動き

米国：FRB議長は、米国地区連銀主催の国際経済シンポジウムでの講演で、金融政策に関し物価よりも雇用を重視し、2%を超えるインフレ期間を容認する考えを示しました。FRBによる戦略の詳細が注目される中、当面の長期金利はレンジ内で推移するとみています。

欧州（ドイツ）：新型コロナウイルスの感染再拡大に対する懸念から経済回復ペースの鈍化が意識されますが、ドイツ経済の回復は比較的堅調であり、すでに大規模な金融緩和政策を実施しているECBがさらなる追加緩和を行う可能性は低いと考えられます。ドイツ長期金利はレンジ内で推移するとみています。

	9月11日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	0.67	▲0.05	0.01	▲0.16	▲1.07
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	497.21	0.08%	▲0.16%	4.55%	7.20%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

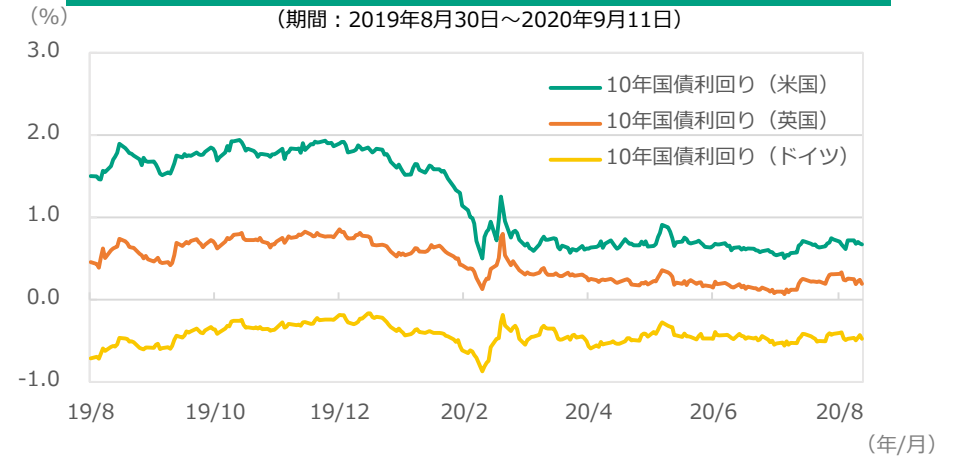
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202009_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移

（期間：2019年8月30日～2020年9月11日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2019年8月30日～2020年9月11日）



※2019年8月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成